

【資料 7】

「若者クリエイト部会」における検討結果 (テーマ：若者と選挙について)

若者クリエイト部会 部会長 青木正繁

開催日時 10月25日(火) 10:00~12:00
場 所 徳島大学フューチャーセンター

1 投票率が低い理由

- ① 県外に出た大学生の多くが住民票を移していない。
- ② 親に養ってもらっている若者は、税の有効活用を考えることも少なく、選挙によって自分たちの将来がどう変わっていくかということを実感しにくい。
- ③ 選ばれた政治家が何をしたかということはニュースで取りあげられないので、選挙に行っても何も変わらないだろうという意見になってしまう。それはマスコミの責任であり、マスコミをそうさせた有権者の責任でもある。
- ④ 若者にとって、選挙カーで名前を連呼するだけの選挙活動は受け入れにくい。
- ⑤ 18歳でいきなり選挙といっても、1人で投票所には行きにくい。期日前投票や当日を含め、1人で投票に来る若者は少ない。
- ⑥ 県外からきた大学生にとっては、投票所の場所が分かりにくい。

2 対策

(1) 関心を高める（教育・啓発の視点から）

- ① 選挙に関する出前講座は、18歳の高校生を対象とするだけでなく、小学生から長期間にわたって行うというのも一つの手だと思う。
- ② 昔と違って、インターネットで情報を発信できる時代なので、選挙カーに乗って大きな声を出しながら会いに行く必要はない。声をからして名前を連呼する従来のスタイルではなく、候補者は自分の意見をちゃんと話し、有権者も自分たちの憧れのリーダーを投票で選ぶんだという方向に変わっていくべきだ。
- ③ ヨーロッパでは、選挙期日に候補者がブースに座っていて、気軽に誰でも話を聞きに行ける。日本でも、候補者の主張や、そうすることで世の中がどう変わるのかということの説明に時間を費やすべきだ。

- ④大統領選挙で誰が選ばれるかによって自分の生活が大きく変わる国では、国民は命がけで選挙を行っている。日本でも、選挙を自分事と捉えられる主権者教育をすると良いのではないか。
- ⑤学校を建てる財源がどこから出ているかというような身近な話を家庭ですること、選挙に行くことが当たり前という感性が育つのではないか。
- ⑥SNSにおける啓発をしっかりと行う。
- ⑦政治・行政と自分の生活が、いかに密接な関係にあるかということ啓発していくべき。
- ⑧マスコミ・有権者の双方が意識を高めて、投票の結果がどのように反映されているのかを確認していく姿勢が必要。
- ⑨阿南高専では、生徒会長立候補者が、茶髪OK、制服廃止といった内容から大きなことまで全校生徒の前で演説をするので、選挙に対する関心も高い。修学旅行の行き先を決めるときなど、身近なことは誰でも選びたいものなので、そういうことが学校の中だけではなく、ゴミ問題など地域のことから国の政策まで、選挙で変えていけるんだという実感が持てるように、小さいときから選挙の教育を行う必要がある。そうした積み重ねの結果が投票率の向上につながるのではないか。
- ⑩「自分の意見ってちゃんと通じるんだよ、届くんだよ」というイメージを持つことができるように、大人が環境づくりをしていかないといけない。
- ⑪投票に行った人はお笑いイベントが入場無料になるという取組があったが、投票日の夜に参加できる楽しいイベントがあっても面白い。

(2) 投票しやすくする（投票環境の視点から）

- ①投票率を上げるには投票のオンライン化が望ましい。個人情報保護、不正対策、システム構築に係る莫大な費用など課題もあるが、導入を考えるべき。
- ②投票所の場所を分かりやすく案内するとともに、入りやすくする工夫が必要。
- ③いきなりの選挙で緊張しないように「子連れ投票」を推奨すべき。
- ④不在者投票は、書類送付を請求しないと行けないので、その請求くらいはネットで申請できるようにして、少しでもハードルを下げるべきだ。
- ⑤若者クリエイト部会のメンバーで、学校に出前授業に行くのもよい。若者の意見を聴く機会もほしい。

(3) その他の視点

- ① 目的は、投票率を上げるのではなく、若者の意見を世の中に反映させること。高齢者世代の意見が反映され過ぎて、将来に過度な負担をかけてしまうような政策が採用されやすいことが問題。
- ② 制度を見直す前に、まずは若者の意見をしっかりと吸い上げ、若者が何を考え、何を必要としているのかを詳細に分析し、その解決に何が必要かを明らかにして、施策や制度に反映していくことを考えたい。
- ③ 若者の意見を政策に反映することを目的とした場合、必ずしも選挙に頼る必要はないのではないか。改善してほしいことがあるなら、まず自分達でやってしまえばいい。自分たちでできないことを政治・行政で対応してもらう必要が出てきたときに、選挙を意識するというステップが必要。だから選挙に行く必要はない。むしろ徳島県は選挙に行かなくていいと謳ってはどうか。自分達でどうにかできるだろうというところからスタートして、それが結果的に政治や行政への興味につながるのではないか。
- ④ 徳島県と高知県が合区されたことで、投票所では「高知県のことやわからんわ」って言いながら投票する人も多かった。
- ⑤ 「一人一票」は真に平等な制度か。平均寿命に対して何年余命があるかということによって票を割り振る方法もある。余命に応じてあなたは8票、あなたは1票、平均寿命を超えた方は申し訳ないが0票とする。現実にはそんなことはできないが、高齢化社会で、数の少ない若者は選挙で負けてしまう。そこで、世代間交流の場をつくり、若者がお年寄りを説得することで、実質的に若者に票をもらう効果を生み出せるのではないか。
- ⑥ 悪天候で投票に行けないお年寄りのところへ、若者が票をもらいに行くというのもあってよい。